

令和5年度 三股町立三股小学校 自己評価・学校関係者評価

学校経営ビジョン: ~みんなが まいにち たのしい 学校~ みんなで三股小

4段階評価 (4:期待以上、3:ほぼ期待通り、2:やや期待を下回る、1:改善を要する)

項目	本年度の重点目標と目標達成のための手段	手段	反省及び改善策等 (●は課題や次年度への方策等)	自己評価	関係者評価	学校関係者評価	
豊かな心の育成と基本的な生活習慣の確立	■目標 教師と児童、児童同士の信頼関係を育てるとともに、きまりやマナーを守る態度や危険回避能力等を育成する。 ■手段 1 差別やいじめを許さない人権教育の推進と望ましい言動の称賛(ピアサポートの推進、さん付け呼びの徹底等) 2 教育相談の計画的な実施と情報共有、諸問題への組織的な早期対応 3 積極的な生徒指導の充実と基本的な生活習慣の指導の徹底(挨拶、廊下歩行、履物揃え)、「みまたの日」の充実(三股町児童生徒憲章朗読 等) 4 情報モラルの実態把握とモラル教育の推進 5 インクルーシブ教育環境の整備と道徳教育の充実を核とした思いやりの心の育成 6 関係機関との連携及び専門スタッフ(SC・SSW)の活用 7 意図的・計画的な道徳教育による豊かな道徳性の育成、命を大切に教育の推進 ※SC・・・スクールカウンセラー SSW・・・ソーシャルスキルワーカー	1	○ 始業式や終業式などで、学校長が差別やいじめを防止するための人権教育を実施した。また、生徒指導主事による校内外生活についての指導をするとともに、模範となる行いをした児童を表彰した。このように児童一人一人が望ましい言動を行おうとする心情の育成を図っている。児童の気になる言動に対しては学級で素早く対応するとともに、全職員で情報を共有し、組織として早期解決を目指してきた。 ● 「さん」付けで名前を呼ぶ等言葉遣いの指導を継続していく必要がある。	3.1	3.2	3.5	<ul style="list-style-type: none"> ピアサポートなどを通して人間関係づくりや友達を支える指導がなされている。 「さん」付けで友達を呼ぶことに関しては、就学前から(幼稚園や保育園、こども園などで)意識して身に付けさせてもよいと感じた。 SC、SSWの活用は有効。しかし、相談の時期が限られていることから、相談したい時にすぐに対応できないことも考えられる。 地域では子供たちがよく挨拶ができていていると感じる。 携帯電話等の保有率も上がっており、情報モラル教育が大切であると感じた。就学前から、頻繁に使う様子も見られる。まずは大人からその使い方について手本を示す必要がある。
		2	○ 教育相談週間や月1回の児童への生活アンケートを実施し、学級担任や関係職員が児童の日常の悩みや困っていること等の把握に努めた。アンケート結果をもとに学校生活における児童の実態を適切に把握するとともに、教育相談の中で、児童一人一人の話を丁寧に聞き取り、諸問題の解決を図った。全職員で児童への適切な支援・指導方針について協議し、共通理解を図っている。 ● 児童が置かれている教育環境を全職員で改善していくと共に、児童の様子を中長期的に見届け、解決まで寄り添う指導、支援の在り方を定期的に点検、改善を図っていく。	3.5			
		3	○ 各学年、学級で繰り返し指導を行っており、集会や校内放送などで呼びかけを行い、挨拶や会釈、静かな廊下歩行が少しずつ身に付いてきた。五・七・五など短く分かりやすい言葉を使って声かけするよう心がけた。 ● 進んで挨拶・会釈を行うことや、登下校時の校門での挨拶を定着させる指導を継続していく必要がある。	3.3			
		4	○ 道徳の学習や非行防止教室、学校保健委員会などの中で情報モラルについて学ばせることができた。 ● 情報モラル教育の在り方について、校内で確認を行うことが必要である。	2.9			
		5	○ 学年研修等で道徳の授業づくりや通級指導の在り方について共通理解を図ることができた。ピアサポートについては定期的に各学年に提案し、実践を重ねることができた。児童それぞれが感じる苦手な部分を少しずつ減らしていく方向で指導を継続していきたい。 ● 支援学級と交流学級における情報共有が必要である。6年は一部教科担任制で、情報共有が不十分なところがある。特別支援学級について、通常学級児童への説明が必要だと思われる。	3.2			
		6	○ SCを活用し、児童・保護者・教職員の相談に対応することができた。 ● SCが来校される回数、時間に限りがあるため、SC相談件数が多いときに十分な対応ができない。また、SSWの効果的な活用の在り方についても検討していく必要がある。	3.1			
		7	○ 日常の学習活動や道徳の授業、学級活動で豊かな人間関係の醸成に努めることで、学校全体に相互を尊重し、認め合う雰囲気が培われ、毎日楽しく登校できる学校づくりに繋げることができている。	3.4			
学力向上と指導方法の工夫改善	■目標 「進んで自分の考えを表現できる児童の育成」 ~授業で勝負!国語科の指導方法の工夫・改善を通して~ ■手段 1 4+4のチェックポイントを意識した分かる授業づくりと習熟の時間の確保 2 各種学力調査及びNINO等の分析と授業改善への活用 3 家庭学習の見届けの徹底と家庭との連携による習慣化 4 図書室の活用と読書活動の習慣化(量と質のバランス)	1	○ 初任研等の研究授業では、「4+4」の視点に沿って授業作りや事後研・反省を行うことができた。 ○ 主題研究の中で、児童の表現の場を十分に確保することを共通理解し、実践につなげることができた。 ● 「4+4」「ひなたの学び」の浸透、意識化がもう一歩である。主題研と絡めて次年度は浸透・意識化を図る。	3.0	3.0	3.5	<ul style="list-style-type: none"> 前向きに学習に取り組んでいる様子がうかがえるので、今後さらなる学力向上につながっていくのではないかと。 いろいろな調査で子どもたちの学力の見取りを行っている。しかし、結果を分析し、生かす(指導するための時間的余裕が先生方にあるのだろうか)。 宿題に対する家庭の考えはそれぞれである。放課後の家庭や地域での人間関係づくり(ふれあい)と学力向上(宿題への取組)を両立させるのは難しい。
		2	○ 夏期休業中に、「全国学力テスト」の結果分析及び実際に解いてみる活動をもとに、「子どもに求められている力」「授業改善の視点」等を、各学年部で確認、協議することができた。 ● NINO分析の時間を十分に確保することができなかった。次年度は、分析の時間を確保する。	2.8			
		3	○ 各家庭の協力もあり、家庭学習にしっかり取り組んでいる児童が多い。 ● 昼休み時間が短くなり、宿題のやり直しや補習したりする時間が十分にとれない。 ● 家庭学習の習慣づくりのためにも、各家庭で宿題をやり終えた見届けまでしていただくとありがたい。	3.0			
		4	○ 図書室の来室が多かった。また、図書館サポーターの協力による調べ学習における本の効果的な活用、スムーズな貸し借りが実現した。図書委員会による「読書祭り」は、来室者を増やす、よいきっかけとなった。 ● 自宅に持ち帰らず、学校で読む児童が多く、家庭での読書習慣にはつながらなかった。	3.2			

<p>体力向上と健康の保持増進</p>	<p>■目標 進んで運動に親しみ健康な生活を営む技能や態度の向上を図る。</p> <p>■手段 1 体力向上プランに基づいた体育指導の充実(サーキットトレーニング等の位置づけ) 2 体育行事の充実及び日常的な外遊びの奨励 3 栄養教諭と連携した「食」に関する指導の充実 4 諸検査の結果を生かしたきめ細かな保健指導の充実と望ましい生活習慣の醸成</p>	<p>1 ○ スポーツフェスタは、今年度も午前中に全校参加での開催ができた。また、昨年度に引き続き、持久走大会を三股町のふれあい広場で計画していたが、天候や感染症の影響で、校内での実施となった。校内でも十分に実施できることが分かった。</p> <p>○ 体力テストおよび水泳指導を実施し、児童の体力の現状を把握できた。</p> <p>● 体力テストの結果を活用し、学年・学級ごとに受け、サーキットトレーニングの充実、運動量の確保等、さらに指導者の意識を高め、体力向上に努めていきたい。</p> <p>● 持久走大会の実施時期や開催場所、天候については十分に配慮していく。</p> <p>2 ○ コロナの5類移行を受け、昼休みに積極的に外遊びをする機会を作ることができた。</p> <p>○ 1月には、昼休みに体育委員会がジャンピングボードを設置することで、体力の向上を図った。</p> <p>3 ○ 栄養教諭との連携・役割分担をしながら「食」に関する指導の充実を図ることができた。</p> <p>○ 弁当の日は、1、3学期実施できた。弁当の日便りで、児童や保護者の感想を伝えることができた。苦勞されている面を伝えることで共感できるような紙面作りをした。自分のレベルにあった実践ができるので、児童の達成感につながっている。</p> <p>● 栄養教諭が作成している北校舎 2 階の掲示板やコンテナ室前のクイズなどを放送で紹介し、興味関心を高める取組をしていきたい。</p> <p>● 食育の日が19日となっているので、給食指導の日に放送をしていけるとよい。</p> <p>4 ○ 身体計測の結果をもとに机いすの号数を算出し、全職員で調整を行い立腰指導の常時指導につなげた。</p> <p>○ けんこうカレンダーで1週間を振り返り、望ましい基本的な生活習慣を身に付けられるよう学級で指導をした。また児童保健委員が放送で生活習慣についての呼びかけを行い、全児童への意識向上につなげた。</p> <p>○ 毎日の歯みがきの常時指導に加え、3、4年生は歯科衛生士を招いての歯みがき指導の実施、5年生は全国歯みがき大会への参加をし、歯みがきをする習慣に役立てた。</p> <p>○ 学校保健委員会を2回実施することができた。5月は3年児童と保護者を対象に体力向上に向けた取組を実施した。1月には4～6年生対象にメディアとの接し方について講話を聞き、メディアコントロールの意識付けを行った。</p> <p>○ 1年生では専門家を招いて手洗い教室を実施し、各教室でも消毒の必要性を指導し、継続的な実践につなげた。</p> <p>● トイレ清掃については、男女別に集合し、動画での具体的指導を行った。継続的に指導していく必要がある。</p> <p>● 歯に関しては家庭での意識や取組の差があり、むし歯治療率向上の難しさがある。</p>	<p>2.9</p> <p>3.0</p> <p>3.5</p> <p>3.3</p>	<p>3.2</p>	<p>3.5</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 体力は二極化の傾向があるのではないか。また、コロナ禍で長い期間遊びなども制限されていたので体力は低下傾向にあるのだろう。今後回復できるとよい。 ・ 鉄棒の逆上がりはどれくらいできるのだろうか。上達したいという気持ちがないと体力も高まらない。「できた!」という喜びを味わうことが体力向上につながるであろう。 ・ むし歯の治療率を上げるために苦勞されている様子である。むし歯治療は思い立ってすぐに行けない(予約が必要、仕事の都合など)こともあり、なかなか治療が進まない家庭もあるのだろう。しかし、歯の健康はとても大切なので今後も呼びかけを継続してほしい。 ・ 視力の低下も心配される。タブレットによる学習時間の増加による目の健康への影響も見守っていく必要がある。
<p>開かれた学校づくり</p>	<p>■目標 学校・家庭・地域・関係機関等との連携を推進し、協力し合える関係づくりに努め、地域の中の学校としての信頼を確立する。</p> <p>■手段 1 将来の地域を担う人材を育むふるさと教育及びキャリア教育の推進 2 家庭や地域等との連携・協力による効果的な教育活動の実施(学校運営協議会) 3 学校からの情報発信(ホームページの充実)と家庭や地域からの情報収集</p>	<p>1 ○ キャリア教育は、全体計画に沿って、様々な教科・領域等で指導を行っている。</p> <p>● 教職員が、キャリア教育で育成すべき力についても意識して指導する必要がある。</p> <p>● キャリアパスポートの取り扱いについては、中学校への接続も含めて、町で統一した方法を確認し、共通理解する必要がある。</p> <p>2 ○今年度も、生活科(まちたんけん)や総合的な学習(地域学習)、社会科、棒踊りなどでは、地域に協力を依頼して、学習活動に地域素材や人材を取り入れるなどして積極的に活用できた。</p> <p>3 ○安心・安全メールで各家庭に必要な情報や予定変更を知らせることができた。</p> <p>●ホームページについては、学校の教育活動が伝わるように、充実させていきたい。</p>	<p>3.0</p> <p>3.1</p> <p>3.2</p>	<p>3.1</p>	<p>3.6</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ キャリア教育に保護者の協力を得ながら取り組んでいるのがよい。 ・ 棒踊りの伝承・披露は保護者の関心も高いようだ。地域とつながるきっかけにもなっている。 ・ ホームページでの情報発信は大切だが、個人情報保護の観点から、運用が難しくなっている。
<p>教職員の資質向上と働き方改革</p>	<p>■目標 子どもによりよい授業を提供するために、教職員一人一人の資質を向上させるとともに、よりよい職場環境を目指す。</p> <p>■手段 1 現職教育における OJT 等の職員研修の工夫と充実 2 キャリアデザインやライフプランに応じた人材育成 3 コンプライアンスの徹底と働き方改革の推進(コンプライアンス推進委員会等の活用・時間外業務への意識改革:月 80 時間以上の残業0)</p>	<p>1 ○ 主題研究を中心に、職員同士での学び合いが推進された。他の職員の実践発表を基に、自分の学級の実践へつなげるなどOJTによって教職員の資質向上につながった。</p> <p>2 ○ 教職員評価に係るミーティングやフィードバックを通して、教職員のキャリアや課題に応じた指導助言を行うことができた。</p> <p>● 研修履歴シートを効果的に活用し、職員一人一人の実態に応じた資質の向上を図っていく必要がある。</p> <p>3 ○ コンプライアンスに関する研修や通信等を通して、学校の実態に応じた啓発を行うことができた。</p> <p>○ コンプライアンス推進委員会を実施し、課題や対応策についての共通理解を図り風通しのよい職場づくりに努めた。</p> <p>● 繁忙期に80時間以上残業の職員が見られた。さらなる業務の精選と効率化を図り、働き方改革を推進していきたい。</p>	<p>3.3</p> <p>3.1</p> <p>3.2</p>	<p>3.2</p>	<p>3.5</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 男性の育児休暇取得の推進などの動きがあるが現在の実態が気になる。人材不足で代替りの教員も見つかりにくい中兼ね合いが難しい。 ・ 業務の精選、効率化は今後も進めていく必要がある。 ・ 教員の資質向上のためには、豊富な人材が集まる職場にならないといけない。教員が憧れられ、魅力的な存在になるとよい。